



「お彼岸」



みなさんこんにちは。今日は「お彼岸」のお話をします。

日本の仏教では、三途の川さんずよりもこちら側しがんを此岸と呼び、向こう側であるあの世ひがんを彼岸と呼んでいます。此岸しがんと彼岸ひがんの距離が最も近くなり、あの世と思いが通じやすくなると考えられたのが「お彼岸」です。秋のお彼岸は「秋分の日」を中心とした前後 3 日間が指定されており、ご先祖様うやまを敬い、お墓参りやお供えをします。その時のお供え物のひとつとして「おはぎ」を食べる風習があります。日本では昔から、小豆あずきの赤い色には魔よけの効果があると考えられていました。また、貴重な砂糖を使用したお菓子であり、ご先祖様への感謝や家族円満を祈っていたと言われていました。

今年の秋分の日は 23 日の土曜日で、昨日から彼岸入りひがんいをしました。今日の給食では、お彼岸にちなんでおはぎがあります。味わって食べましょう。これでお話を終わります。